

## 平成 26 年度 地域資源を活用した新商品開発事業報告(陶磁器)

西川 孝\*, 岡本康男\*, 榊谷幹雄\*\*, 林 茂雄\*\*, 丸林良嗣\*\*

### Project Report of Promotion Program on Development of Ceramics with Regional Resources

Takashi NISHIKAWA, Yasuo OKAMOTO, Mikio SAKAKIYA, Shigeo HAYASHI  
and Ryoji MARUBAYASHI

#### 1. はじめに

国内陶磁器産業は、顧客の買い控えやライフスタイルの変化に伴う総需要の減少、海外からの安価な製品の流入等様々な要因により、国内生産量は 1990 年頃からの 25 年間で大きく低下した<sup>1)</sup>。しかし、ここ数年アベノミクスによる株高等の影響もあつてか、生産量はほぼ横ばいとなっており、生産額は若干ではあるが上昇している品目もみられる<sup>2)</sup>。このことにより、国内他産地との競争が年々厳しさを増している四日市萬古焼、伊賀焼の産地においては、市場シェアを拡大する機会が訪れている。

こうしたなか、本事業では四日市萬古焼と伊賀焼を地域資源であると定め、それぞれの地域において四日市萬古焼、伊賀焼の事業組合、関連団体や商工会議所、市町等の多様な主体と県の連絡会議を開催した。

さらに、この多様な主体に加え、四日市萬古焼・伊賀焼事業者に参加を広く募り、それぞれの地域で連携研究会(図 1)を開催したのでここに報告する。

#### 2. 連絡会議及び連携研究会の開催

表 1 に平成 26 年度に実施した連絡会議及び連携研究会の概要を示す。連絡会議については四日市、伊賀の各地区についてそれぞれの地区で 1 回ずつ開催した。同会議においては、各主体が支援メニューの紹介を行い、さらに情報交換及び意見交換を行うことにより一層連携を深め、これまで実施してきた活動をさらに活発に行っていくことを確認した。

\* 窯業研究室

\*\* 窯業研究室伊賀分室



図 1 連携研究会

連携研究会においては、当室保有の技術シーズの紹介を行うとともに講師を招聘して開催する新商品開発セミナーを通して、事業者への情報提供、および意見交換も行った。こうして技術シーズの紹介、企業ニーズの発掘を行うことにより、共同研究につなげ、共同研究による新商品の開発を促進した。なお、連携研究会については四日市、伊賀の各地区においてそれぞれ 2 回ずつ開催した。なお、第 2 回四日市萬古焼連携研究会については窯業研究室研究発表会と併催とした。

#### 3. 共同研究の実施

平成 26 年度は県内 2 企業との間で共同研究契約を締結し、技術課題の解決及び新商品の開発に取り組んだ。共同研究の概要については表 2 に示す。その結果、共同研究から 2 件の試作品を開発することができた。試作品、ハーブ栽培等に適した二重植木鉢を図 2 に示す。

表 1 連絡会議及び連携研究会の概要

日時	内容	場所	参加者数
●伊賀焼関係連絡会議			
H26.6.24	1. 参加機関からの伊賀焼関連事業（取組）紹介 2. 意見交換 等	伊賀焼伝統産業会館	8 機関 13 名
●四日市萬古焼関係連絡会議			
H26.6.25	1. 参加機関からの萬古焼関連事業（取組）紹介 2. 意見交換 等	窯業研究室	10 機関 13 名
●第 1 回伊賀焼連携研究会			
H26.7.7	1. 新商品開発セミナー 「地域ブランド化のための商品ディスプレイと演習」 EMK デザインスタジオ 小野恵美子	伊賀焼伝統産業会館	24 名
●第 1 回四日市萬古焼連携研究会			
H26.7.23	1. 窯業研究室技術シーズ紹介 岡本康男 「窯業研究室における耐熱陶器の開発」 2. 新商品開発セミナー 「中国景德鎮の陶芸・陶業事情」 景德鎮陶瓷学院 客員教授 二十歩文雄	窯業研究室	14 名
●第 2 回伊賀焼連携研究会			
H26.11.28	1. 窯業研究室技術シーズ紹介 「窯業研究室における耐熱陶器の開発」 岡本康男 「伊賀焼炬器の開発」 林 茂雄	伊賀焼伝統産業会館	14 名
●第 2 回四日市萬古焼連携研究会（窯業研究室研究発表会と併催）			
H27.3.16	1. 新商品開発セミナー 「地域ブランドの振興策を考える」 株式会社陶業時報社 代表取締役社長 村井慶治 2. 研究発表 「エタノールからの水素製造に適した触媒の開発」 橋本典嗣 「強度向上等を図った伊賀焼素地用釉薬の開発」 林 茂雄 「コーディエライト質耐熱素地に適合した釉薬開発」 真弓 悠 「コーディエライトの低温合成について」 岡本康男	ばんこの里会館	28 名

表 2 共同研究の概要

期間	研究課題	共同研究先
H26.7.1～H27.2.27	ハーブ栽培等に適した二重植木鉢の製品デザイン開発	萬古焼製造業者
H26.7.1～H27.2.27	半磁器製品用陶土の耐貫入性、機械的強度の向上	萬古焼製造業者



図2 ハーブ栽培等に適した二重植木鉢

#### 4. まとめ

地域資源を活用した新商品開発事業（陶磁器）は今年度で実施最終年度となった。4年間を通し連絡会議を開催して、四日市萬古焼、伊賀焼の各担当者が情報交換・意見交換を行い、効果的に連携を図って行く場として成長した。

また、連携研究会においては当室保有の技術シーズの紹介・試作品の提案、新商品開発セミナーを開催し、これらにより、地域資源を活用し、新商品開発や課題解決に向けて取り組むことができた<sup>3-5)</sup>。

本事業で形成したネットワークや新商品の開発力を活かし、さらに魅力ある新商品の提供を行えるように次年度以降、事業で展開していきたい。

#### 参考文献

- 1) 経済産業省 工業統計表 (1991～2013)
- 2) (一財) 日本陶業連盟 生産統計
- 3) 水野加奈子ほか：“地域資源を活用した新商品開発事業報告（陶磁器）”。三重県工業研究所研究報告, 36, p136-138 (2012)
- 4) 榎谷幹雄ほか：“平成 24 年度地域資源を活用した新商品開発事業報告（伊賀焼）”。三重県工業研究所研究報告, 37, p128-129 (2013)
- 5) 西川孝ほか：“平成 25 年度地域資源を活用した新商品開発事業報告（陶磁器）”。三重県工業研究所研究報告, 38, p141-143 (2014)